

命を守る

～事故・災害に備えて～



事故・災害は各自が注意を払っていても完全に避けることはできませんが、自然災害を除き、発生する危険性を低下させることは十分に可能です。また、災害が生じた後の対応をきちんと取ることが出来れば、被害を最小限に抑えることが可能となります。被害の拡大を避けるための適切な行動を各自で取れるよう記載している項目を、普段から心がけてください。

学校法人 瓜生山学園

京都造形芸術大学

京都芸術デザイン専門学校

京都文化日本語学校

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

Telephone 075-791-9122

Facsimile 075-791-9127

火災が起こってしまったら

非常ベルを鳴らす

通報

事務局又は研究室に知らせましょう。

避難する

煙を吸わないようにして、落ち着いて建物の外にでましょう。



火災発生



大声で叫ぶ

「火事だ」と大声で叫び、隣の教室などに知らせましょう。



非常口



避難場所

指示された場所に避難しましょう。避難後は、再び中に戻らないようにしましょう。

エレベーターは絶対に使わない!!

火元から離れた階段で、安全な道を選び、最短距離で避難しましょう。

速やかに避難

持ち出し品などにこだわらずに、慌てず、走らず、人を押さないで避難しましょう。

火より怖い煙～煙から命を守るために～

POINT①

ハンカチや衣類で鼻や口をおおきましょう。短い距離なら息をとめていっきに避難してください。



POINT②

姿勢を低くして、ほうように進み、地面のスレスレの空気を吸うようにしてください。



POINT③

壁つたいに進むと方向もわかりやすく、避難しやすいので体勢を低くして壁際によってください。

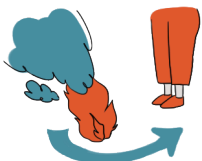


階段の場合

階段の段のくぼみ部分には空気が残りやすいので、段のくぼみに顔をつっこむようにして呼吸をしてください。

消火器の使い方

①火災や煙を避けて風上にまわる



②安全ピンを抜く



③ホースをはずして火元に向ける



④レバーを握って放射する



⑤火の根元を掃くように左右に振る



消火器の使い方のポイント

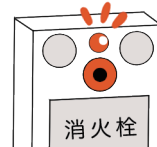
- 炎や煙の風上に立つ。
- 腰を低く落とし、安定した姿勢で火の根元を狙う。
- 火元を狙ってからレバーを握る。

屋内消火栓の使い方

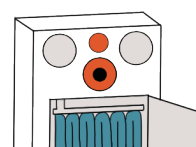
①起動ボタンを押す



②表示灯が点滅してポンプの始動を知らせる



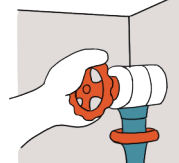
③消火栓の扉を開き、中にあるホースをのぼす



④ノズルをしっかりと持つ(できれば2人で)



⑤バルブを開けると放水が始まる



⑥放水が始まる



地震が起こったら



地震発生

頭を保護

発生中は頭を守りましょう。

- ！ 大きな揺れは1分程度でおさまります。
- ！ まずは自分に身を守る事を考え、あわてず冷静に行動しましょう。
- ！ もし周りがパニックに陥りそうになっていたら、「落ち着け」「頭をおおえ」など、大きな声を掛け合い助け合しましょう。

● 倒れやすいものに近づかない。



誘導に従って避難

頭上に注意して安全に避難しましょう。

避難場所

指示された場所に避難しましょう。

エレベーターは絶対に使わない!!

火元から離れた階段で、安全な道を選び、最短距離で避難しましょう

避難口の確保

余震までに教室のドアを開けておきましょう。

火元を確認する

安全の確保をしましょう。

緊急避難が必要な場合

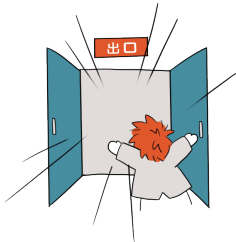
授業中に地震が発生したら、学生(受講生)は先生の指示に従ってください

①まず、教室内で…

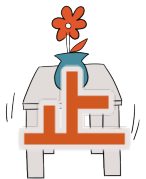


●机の下にもぐるかカバン等で頭を保護する。

●余震(次の大きな揺れ)までの間にドアを開け避難口を確保する。



●揺れがおさまったら負傷者がいないか確認する。



●負傷者がいる場合は可能な限り救護活動を行う。



●あわてず先生の指示に従い避難指導の指示があるまでその場で待機して単独行動はしない。



②避難を始める前に

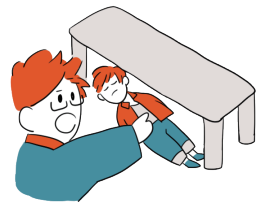
●先生の指示により隣接する教室等の状況を確認し他に教室内で負傷者がいないか倒れた棚などの下敷きになっている者がいないか確認し助け合うことに努める。

●その後の余震に注意しながら避難行動を開始する。

●受講生人数の多い授業の場合は、隣の学生同士で避難終了まで行動を共にするようにし、別行動をしない。

●あわてず先生の指示に従う。

●貴重品・カバンを持って廊下に整列し避難する。

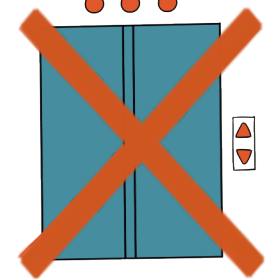


③避難時は

●同一階の教室の状況を判断し、整列ができれば先生の指示に従い階段に近い教室から順次避難する。

※建物の外に避難する場合は、周囲の状況をよく見て判断し、安全を確認してから行動する。

●避難にあたってはエレベーターは絶対に使用しない。なお学生に車椅子の使用者や視覚障がい者・聴覚障がい者等がいる場合は学生が協力して介助のうえ避難する。



④避難できたら

●避難場所での確認が完了したら教職員の指示に従い下校する。

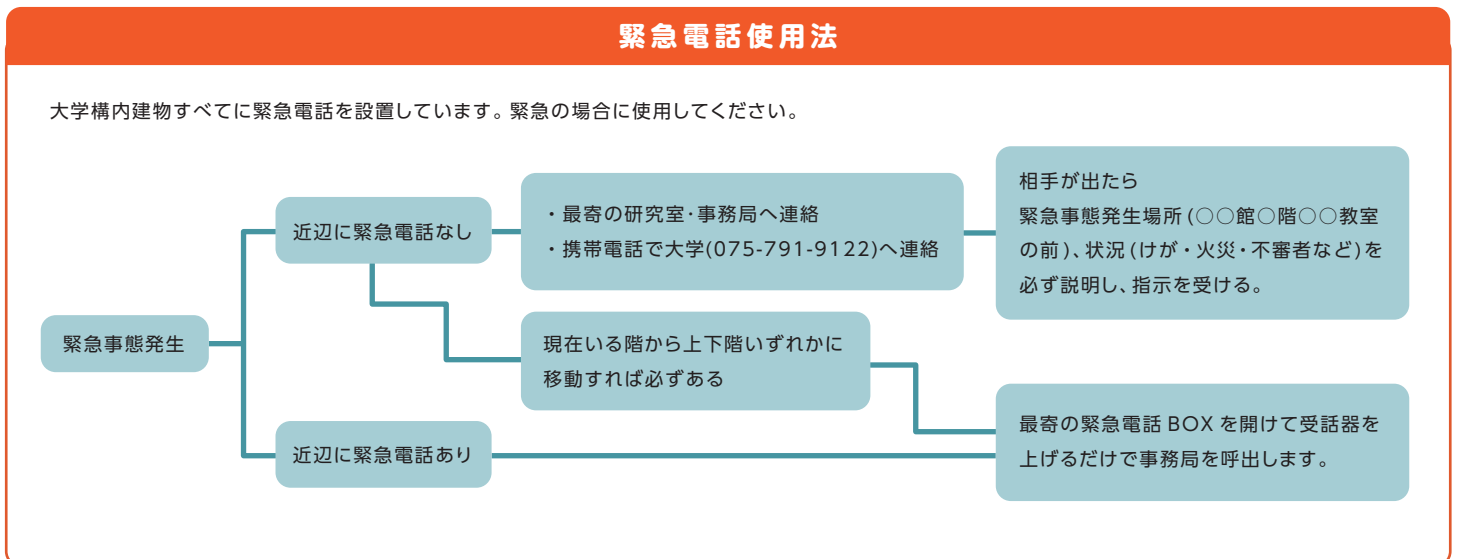


たおれている人を発見したら



※救助者自身の安全を確保するために、周囲の状況を観察し、二次事故、二次災害の防止に努めてください。
 ※傷病者に対してよりよい手当を行うのと同時に、周囲の状況に対処するため、協力者が必要です。
 傷病者の救出、救命手当や応急手当、119番通報、資材の確保、搬送、群集整理など協力を必要とすることが多くあります。

緊急病院一覧表(夜間)		緊急連絡電話番号	タクシー手配
日本バプテスト病院	075-781-5191	救急 / 事故 119	ヤサカタクシー 075-842-1212
京都民医連第二中央病院	075-701-6111	下鴨警察署 075-703-0110	アオイタクシー 075-721-6868
京都第二赤十字病院	075-231-5171		MKタクシー 075-778-4141
京都大学医学部附属病院	075-751-3111		
京都府立医科大学附属病院	075-251-5111		



AED(自動体外式除細動器)の使い方

※除細動とは…致死的不整脈(心室細動)を電気ショックをかけることにより、心臓の働きを戻すことを言います。

AEDの手配

倒れている人が呼びかけに反応しなければ、「意識なし」の状態です。大声で人を呼び集め、「119番に通報してください」「AEDを持ってきてください」と協力を求めます。

AEDが到着したら

AEDは音声メッセージとランプの点滅によって救助者がすべきことを指示してくれますので、落ち着いて従いましょう。

- ① AEDを傷病者の胸部の左側に置きます。
- ② ケースのふたを開け、電源のスイッチを押します。(機種によっては、自動的に電源が入るものもあります。)
- ③ 袋から電極パッドを取り出し、はりつけます。(電極パッドは肌に直接はりますので、傷病者の前胸部の衣服を開きます。) はりつける位置は、右前胸部と左側胸部です。詳しいはりつけ位置は電極パッドや入っていた袋に表示されています。電極パッドと皮膚の間にすき間があると、やけどする危険がありますので、しっかりと密着させることが大切です。

- ④ パッドのケーブルをAED本体に差し込みます。(機種によってはケーブルが本体に差し込まれているものもあります)



●水は厳禁です。雨が降っている場合は、必ず屋根のあるところに移動してから使用してください。

●胸毛が多いと皮膚に密着しないため、強く押しつけて密着させます。

●胸に硬いこぶのようなでっぱりがある場合、心臓ペースメーカーが埋め込まれている可能性があります。でっぱりから3cmくらい離れたところに電極パッドをはってください。

●傷病者が金属製のアクセサリをしていた場合、取り外してください。難しい場合、電極パッドからできるだけ遠ざけてください。

- ⑥自動的に心電図の解析が始まりますので(解析ボタンを押す必要がある機種もあります)周囲からの振動による誤った解析を防ぐため、傷病者から離れてください。

- ⑦心電図の解析の結果、除細動が必要と判断された場合、除細動を実施してください。除細動が実施されると、傷病者の全身の筋肉が瞬時的にビクッと動きます。

- ⑧除細動の成功、失敗にかかわらず、ただちに心臓マッサージ30回人工呼吸2回を開始します。

心肺蘇生を再開して2分(心臓マッサージ30回人工呼吸2回×5サイクル)経つと、AEDが自動的に心電図の解析を始め、再度除細動の要、不要の指示がありません。

「正常な呼吸」や「普段どおりの息」「動き」が見られるか、救急隊員に引き継ぐまでは、これをくりかえします。

「正常な呼吸」や「普段どおりの息」「動き」が見られたら、回復体位にして観察を続けます。



- 救急隊員や医師に傷病者を引き継ぐまでは、電極パッドはつけたままにし、AEDの電源も切らないようにしましょう。